

「庭先の花 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



庭先の花の同定も、だんだん難しくなってきた。これは「庭先」ではなく「歩道の植え込み」で撮影したものだという。私も播磨坂で見たことがある。これは全く何の分類群に属するか、わからなかった。しかし根気よく調べると、「ムラサキクンシラン」という植物だと思った。ヒガンバナ科アガパンサス属の植物だそうで、そう言われてみれば、ヒガンバナの花の付き方に似ている。何と南アフリカ原産だという。南アフリカと聞くと、熱帯地方と勘違いしそう。確かに国土の大半は「砂漠気候」だが、南部は「地中海性気候」(亜熱帯)、東海岸は「温暖湿潤気候」(本州と同じ温帯)に属し、多様な気候環境を有する。南半球なので、日本とは季節が逆だが、日本の気候にも順応できたのだろう。



最後に最難関の花が残った。これも雄しべが異常に

長く、白い小さな花弁が見える。葉はつやがあり、常緑樹のようだ。葉の周囲は「全縁」で「鋸歯」(ギザギザ)はない。一番最初に思いついたのは、ツバキの仲間だが、こんな奇妙な花は見たことがない。



最近のスマホは性能が良い。太陽や星、ISS (国際宇宙ステーション) といった遠い被写体まで撮影できる一方、植物や昆虫の細部まで接写できる。これもよくよく調べた結果、何と「グアバ」の花とわかった。



写真は Amazon の通販で「グアバ茶」を購入した時に掲載されていた画像だ。私は生の果実は食したことがないが、強い香りがあり、好きな人は好きらしい。ちなみに「グアバ茶」は果実ではなく、葉から作られ、健康食品の一つである。

グアバは「フトモモ科」に属し、和名を「蕃石榴 (パンザクロ)」いう。熟した実を横から見ると石榴 (ザクロ) の実に似ている。もちろん熱帯性の植物だが、鉢植えで上手に育てると、家庭でも果実を収穫できるので、園芸家に人気があるらしい。